

「学力向上ポートフォリオ(中学校版)」

学力向上目標

- 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着
 - ・当該学年で習得すべき漢字の読み書きを正しくできるようにする。(自校テストで80%以上にする)
 - ・当該学年で習得すべき「数と式」や「図形」に関する基礎・基本の問題が解けるようにする。(自校テストで80%以上にする)
- 思考力、判断力、表現力等の育成
 - ・令和3年度全国学力・学習状況調査(数学)の「数学的な見方や考え方」の観点における市の平均正答率との差を、同一集団の令和元年度さいたま市学習状況調査の結果と比較し3pt向上させる
- 主体的に学習に取り組む態度の育成
 - ・さいたま市学習状況調査【学習に関する関心・意欲・態度】において、各教科の「勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合を、令和2年度の同一集団の値より3pt向上させる。

具体的な手立て

- 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」における「自力解決」→「協働」→「練り上げ」の流れに重点をおき、学習活動を展開する。
- GIGAスクール構想で配備された1人1台端末で「ドリルパーク」を活用し、各自のペースで学習を進め、定着度に応じた問題演習を行うことで、個別最適な学びの充実を図る。
- デジタル教科書等を活用し、動画やシミュレーションを見せることで、課題提示や課題解決の場面における課題把握や課題解決を効果的に行えるようにする。
- 情報活用能力を高めるため、「ミライシード」の「ムーブノート」を活用した発表場面を設定したり、「Teams」を利用したファイルの共同編集作業を取り入れたりすることで、協働学習の充実を図る。

結果

- 自校テストにおいて、漢字や計算の習得については、おおよそ目標を達成できた。
- 令和3年度全国学力・学習状況調査(数学)の「数学的な見方や考え方」に関する調査にて、令和元年度より自校の平均正答率が4pt減少した。
- さいたま市学習状況調査における、各教科の「勉強は好きですか。」の肯定的な回答割合が、令和2年度の同一集団の値より、0.1pt向上した。

今年度の振り返り・次年度に向けて

令和3年度全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果から、学力向上目標の達成はできなかった。しかし、教科ごとに観点別にみると、国語においては、「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」、数学においては、「数学的な技能」において、成果がみられた。次年度に向けて、各観点の成果と課題を整理し、学力向上策に盛り込む。さいたま市学習状況調査における、「コンピュータやデジタルテレビ・プロジェクト等を使った授業の方がより分かりやすいと思いますか。」の肯定的な回答は令和2年度より3pt減少した。今後は、「まずは使ってみる」の段階から、「授業内容の理解に役立つ」の段階にステップアップできるよう、指導方法の工夫改善を図っていく。